

論
稿

野党の票が分裂した 2023 年パラグアイ 大統領選挙

—最大野党リベラル党の弱体化とポピュリズムの登場

The Split of the Opposition Votes in Paraguay's 2023 Presidential
Elections: The Weakening of the Largest Opposition Party, the Liberal
Party, and the Rise of Populism

田中 秀一

TANAKA, Shuichi

要 約：

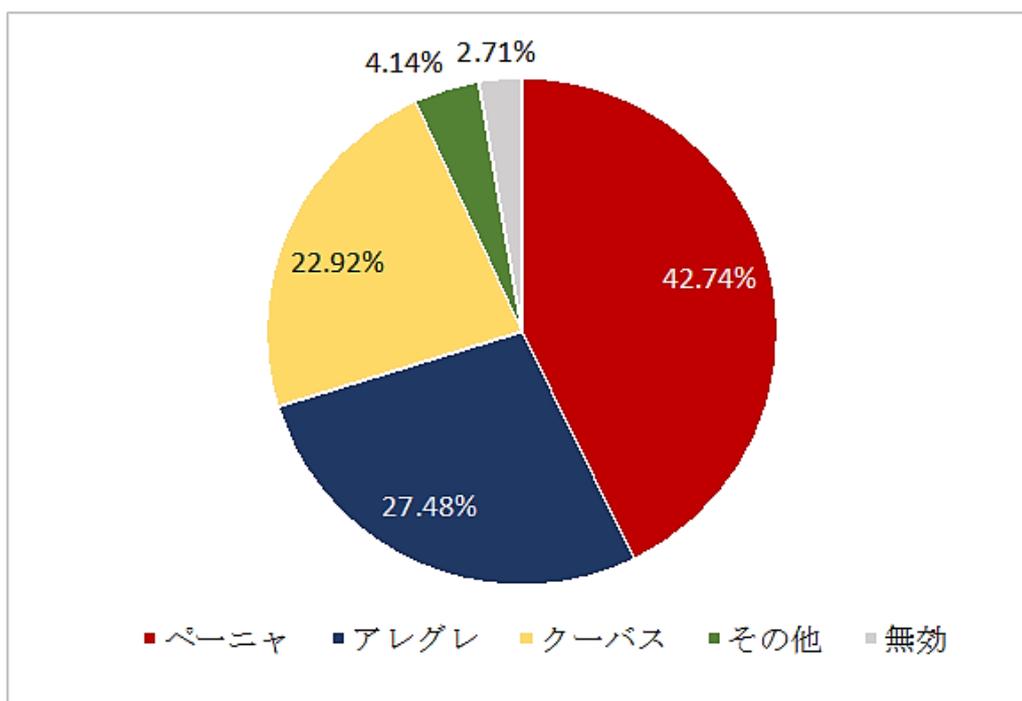
2023 年 4 月 30 日にパラグアイの大統領選挙が実施され、与党コロラド党の候補であるペーニャが当選した。コロラド党は 2008 年から 2013 年の期間をのぞき、70 年以上政権を維持してきたため、現在もパラグアイは一党優位制の民主主義である。一方で、1989 年の民主化以降、最大野党であるリベラル党もつねに一定の支持を集めてきたことが、この国の一党優位制の特徴でもある。2018 年大統領選においても、リベラル党のアレグレは 43%もの票を獲得し、46%を獲得して当選したコロラド党のアブドと僅差であった。しかし、3 度目の立候補である 2023 年の選挙では、アレグレには票の 27%しか集まらなかった。なぜ、アレグレを代表とするリベラル党は以前のように支持を集めることができなかったのか。まず、アレグレの支持が低迷したことにも原因がある。また、ポピュリストであるクーバスの登場により、反コロラド派の票が分断されたと考えられる。本論考では、現地メディアの報道や専門家の見解を参考に、2023 年の大統領選挙を分析する。

キーワード：パラグアイ、2023 年大統領選挙、リベラル党、ポピュリズム

はじめに

2023 年 4 月 30 日にパラグアイの大統領選挙が実施され、与党コロラド党 (Partido Colorado) の候補であるペーニャ (Santiago Peña) が当選した。そして、ペーニャは同年 8 月 15 日に大統領に就任した。パラグアイは大統領制であり、大統領の任期は 5 年である。ただし、憲法 229 条は明確に再選を禁じており、いかなる手段でも再選は不可能だと記述している。また、決選投票は行われない。最高選挙裁判所 (Tribunal Superior de Justicia Electoral: TSJE)¹によると今回の大統領選挙では、大統領に当選したペーニャが 43% の票を得た。リベラル党 (Partido Liberal) が中心となる野党連合のアレグレ候補 (Efraín Alegre) が 27% の票を得て、第 2 位となった。加えて、国家十字軍党 (Cruzada Nacional) のクーバス候補 (Paraguay Cubas) が 23% の票を得て第 3 位となった (図 1)。

図 1 2023 年のパラグアイ大統領選挙の結果



(出所) 最高選挙裁判所の 2023 年のデータをもとに筆者作成 (2023 年 11 月 2 日閲覧)。

今回の大統領選挙において、日本を含む国際メディアの焦点はパラグアイと台湾の関係の行方であった²。ペーニャは台湾との国交維持を支持した一方で、アレグレは台湾との国交断絶、すなわち中国との国交樹立を支持した。アレグレは、中国との国交が存在しないことが、多くの農作

¹ 本稿における 2023 年および過去の選挙に関するデータは、最高選挙裁判所のサイトから入手。

² パラグアイは南米大陸で唯一台湾との国交を維持している。近年中南米ではホンジュラスやエルサルバドルなど複数の国が相次いで台湾と国交を断絶し、中華人民共和国と国交を樹立させている。このため今回の大統領選挙において、台湾に対する候補者の立場が注目された。

物の輸出を阻止していると主張した。2021 年のデータによればパラグアイの輸出額の大豆が 28%、そして牛肉が 15%を占めているが、いずれも中国へ輸出されていない³。実際、パラグアイ農牧協会は近年中国マーケットへの進出を政府に求めてきたため、アレグレは農業を中心とする経済界の支持を得るねらいがあった。これに対しペーニャは、伝統的な台湾との友好関係を優先すると訴え、その旨を伝えるため 7 月に台北を訪問し蔡英文総統と会談した。しかし、今回の大統領選挙で、選挙結果を左右する要因は台湾に対する姿勢ではなく、リベラル党の弱体化とポピュリストの登場であった。このため、本論考では台湾情勢を含む地政学的要素ではなく、リベラル党と第三者となったクーバスに焦点を当て 2023 年の大統領選挙を分析する。

パラグアイでは 1954 年から 1989 年までコロラド党のストロエスネル (Alfredo Stroessner) の独裁政権が続き、1989 年にクーデターにより民主化した。1993 年から、2008 年の大統領選挙をのぞいてつねにコロラド党の候補者が当選してきた。このため、世界でも珍しい一党優位制の民主主義である。この点では、今回の大統領選挙は以前とさほど変わらない結果となった。1989 年以降はすべての大統領選挙において、最大野党リベラル党はつねに二番目に多く、1993 年以降コロラド党と 15%以上の差をつけられることはなかった。このため、政治学的には「一党優位制」であるが、世間では「半二大政党制」と揶揄されている。前回の 2018 年の大統領選挙では、アレグレが率いるリベラル党は 43%の票を集め、46%で当選したコロラド党のアブド (Mario Abdo) と僅差となった。2023 年の大統領選挙では、コロラド党のペーニャが票の 42%を獲得したのに対して、最大野党リベラル党のアレグレは 27%に留まった。やはりリベラル党はコロラド党に次ぐ二番手であったが、珍しく 15%以上も離された。このように、二大政党の票が大きな差となるのは初めてのことである。つまり、今回の大統領選挙の特徴の一つとして挙げられるのが、反コロラド党の支持が分裂したことである。なぜリベラル党は弱体化したのか。言い換えれば、なぜアレグレは前回のように多くの票を集められなかったのか。

本稿では、リベラル党の弱体化とポピュリストの登場によって、反コロラド党の票が分断されたと考える。この分析には、現地の新聞記事やテレビ局が作成した動画、現地の政治学者が執筆した二次資料などを用いる。加えて、ポピュリズムに関する政治学の文献を参考にする。第 1 節では、パラグアイの一党優位制とその特徴について簡単に説明する。第 2 節では、アレグレの台頭と勢力の衰退について解説する。第 3 節では、2018 年以降のポピュリズムの台頭について分析する。最後に、今回の大統領選挙が今後のパラグアイ政治およびラテンアメリカを理解するうえでの重要性について論じる。

1. パラグアイの一党優位制とその特徴

パラグアイは世界でも珍しい一党優位制の民主主義である。1948 年に政権について以降、2008 年から 2013 年の期間をのぞき、現在に至るまでつねに政権を維持してきた。特徴的なのは、独裁者ストロエスネルの与党であるにもかかわらず、1989 年の民主化以降も 2018 年をのぞくすべて

³ “The Observatory of Economic Complexity: Paraguay (Exports).” OEC (2023 年 11 月 2 日閲覧).

の大統領選挙でコロラド党の候補が当選している点である。選挙を通じて一党優位制を保っているという点では、日本の自民党と似ている。しかし、最大野党が一定の支持を得ているという点では、日本の一党優位制とは少し異なる。ここでは、パラグアイの一党優位制における三つの特徴を紹介する（表 1）。

表 1 1989 年から 2023 年までの主要政党を含む大統領選挙結果

政党\年	1989	1993	1998	2003	2008	2013	2018	2023
コロラド党	76.59%	41.78%	55.75%	32.93%	30.63%	45.83%	46.42%	42.74%
リベラル党 (野党連合含む)	20.98%	33.20%	42.61%	24.27%	40.90%	36.92%	43.04%	27.48%
愛国党	-	-	-	21.15%	2.37%	1.12%	-	-
ウナセ (UNACE)	-	-	-	13.47%	21.93%	0.81%	-	-
国民集結党	-	24.39%	-	-	-	-	-	-
国家十字党	-	-	-	-	-	-	-	22.92%
その他	2.43%	0.63%	1.64%	8.18%	4.17%	15.32%	10.54%	6.86%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

(注) 太字は大統領に当選したことを示し、グレーはリベラル党が大規模な野党連合を形成した年である。大規模な野党連合が形成されると、リベラル党は 40%以上の票を集めることがわかる。

(出所) [最高選挙裁判所](#)のデータをもとに筆者作成（2023 年 11 月 2 日閲覧）。

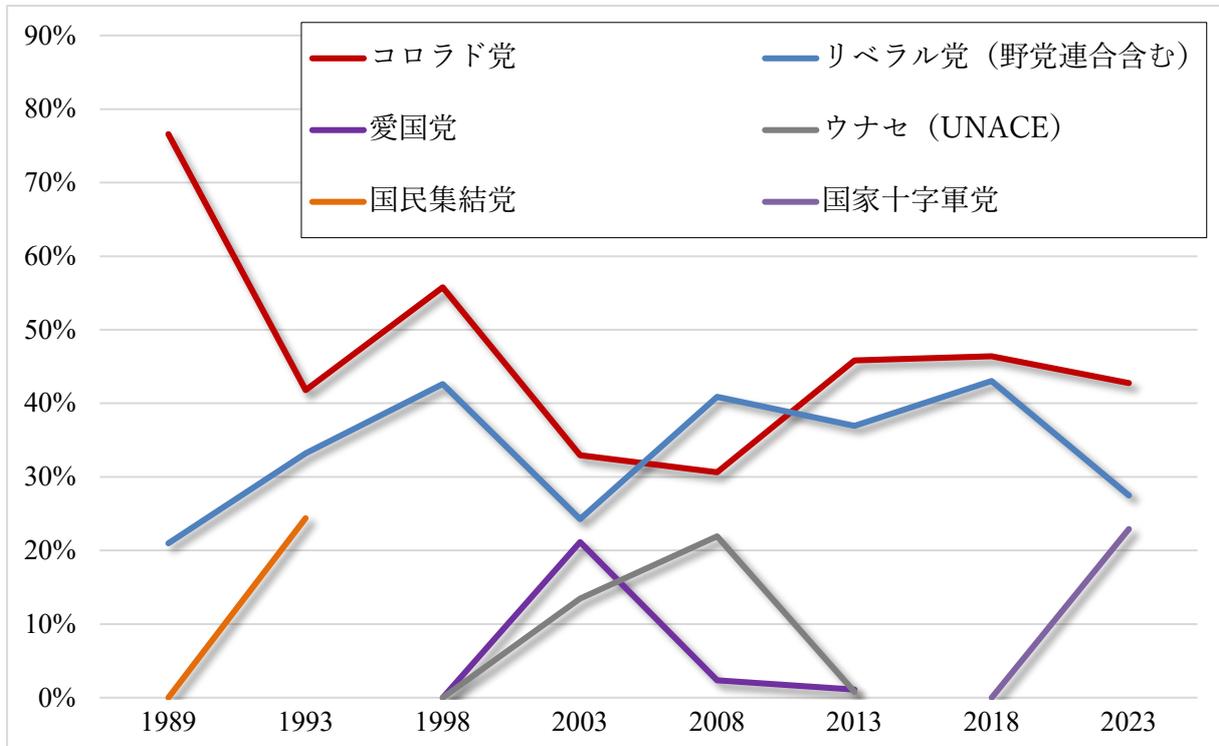
第一にパラグアイの一党優位制の特徴として挙げられるのは、コロラド党およびリベラル党が非常によく似ていることである（図 2）。1887 年 7 月 10 日に創設されたリベラル党がパラグアイで最も古い政党であるが、その 2 カ月後の同年 9 月 11 日にコロラド党が創設された（Pérez Talia 2022: 87-118）。リベラル党は名前のおり自由主義がおもな思想であったが、20 世紀に入り派閥争いにより自由主義の色が薄れていき、リベラル・インターナショナルからも離脱した（Pérez Talia 2019: 39）。リベラル党の綱領の第 7 条には、「パラグアイ的リベラリズム」が党の公式な思想となっているが、その定義は曖昧である。さらに、同綱領の第 1 条には「リベラル党は真のナショナリストである」との記述があるが、リベラル党の根本思想にはナショナリズム以外に明記されていない⁴。この点はコロラド党もまったく同じである。コロラド党のウェブサイト上で唯一、党の思想を提示しているのが 1987 年に書かれたプリエト・イエグロス（Prieto Yegros）のエッセイである⁵。そこには、コロラド党の起源は自由主義にあり、ナショナリストであるとの記述がある。自由主義に起源をもち、ナショナリズムが基本思想であることは、二つの政党に共通することである。つまり、思想的には二つの政党には大差がないと言える。そのため、思想や政策の提言によって

⁴ “Estatutos Partido Liberal Radical Auténtico: reforma del estatuto partidario aprobado por la convención nacional extraordinaria.” Partido Liberal Radical Auténtico, 7 de mayo, 2006.

⁵ “Ideología.” Asociación Nacional Republicana (2023 年 10 月 10 日閲覧)。

支持基盤が形成されているとは言い難い。Lachi y Schaffer (2018) は、コロラド党およびリベラル党はそれぞれ重要なコミュニティであり、支持は家族内で代々受け継がれるものだと主張する。言い換えれば、二大政党の支持基盤はコミュニティへの「帰属意識」で保たれていると結論づける。

図 2 1989 年以降の主要政党を含む大統領選挙結果



(出所) 最高選挙裁判所のデータをもとに著者作成 (2023 年 11 月 2 日閲覧)。

第二に、コロラド党の内部に派閥争いがつねに存在し、これが大統領選挙の結果を決める重要な要因となっている。Sánchez (2018) は政治関連のブログで、一党優位の最大の要因はコロラド党内部の派閥争いにあると指摘している⁶。つまり、党内に多様性があるからこそ、幅広い支持基盤を確保することが可能になると主張する。民主化以降、コロラド党はおもに二つの派閥に分かれていた。元最高裁判長のエリートで、伝統的なコロラド党を代表するアルガーニャ (José María Argaña) の派閥と、地方出身の軍人で農民を意味する「カンペシーノ」(campesino) を代表するオビエド (Lino Oviedo) の派閥が対立してきた。1998 年の大統領選挙では両派閥は協力し、56%の票を得た。しかし、2002 年には、翌年の大統領選に向けてオビエド派はコロラド党から分かれて、「ウナセ」(Unión de Ciudadanos Éticos: UNACE) を設立した。このため、2003 年の大統領選挙では、ウナセが多くのコロラド党の票を奪い、13%の票を集め第三勢力となった。

2013 年にカルテス (Horacio Cartes) がコロラド党政権を取り戻してからは、憲法改正を行い、大統領再選を可能にすることを支持するカルテス派と、大統領再選をめぐる憲法改正に反対し、

⁶ José Tomás Sánchez, “Todo lo puedo en ‘mis debilidades’ que me fortalecen. El Partido Colorado y la fuerza de su inestabilidad interna.” Terere Cómplice. 14 de junio, 2018.

カルテス本人に対抗する「反カルテス派」とに分かれた。2017年には、明確な憲法違反であるにもかかわらず、カルテス派の議員らはカルテスを再選させるため、憲法の改正を模索した。リベラル党のジャーノ（Blas Llano）が率いるジャーノ派も憲法改正に肯定的な姿勢を見せ、カルテス派と協力した。つまり、場合によっては、派閥の対立は党の枠を超えて、派閥同士で協力することもある。一方で、コロラド党の反カルテス派とリベラル党のアレグレ派は、いずれも憲法改正に反対という面で一致していた。2018年の大統領選挙では、コロラド党からは反カルテス派のアブド、リベラル党からはアレグレが立候補し、反カルテス同士の対決となった。

第三に、リベラル党が率いる野党連合の規模や団結が、大統領選挙において決定的な要素になっている。つまり、リベラル党以外の主要野党が参加する大規模な野党連合の形成のための交渉が鍵となる。1998年の大統領選挙では、当時第二の野党であった国民集結党（Partido Encuentro Nacional）と連合を組むことができた。そして、連合が成立しなかった1993年よりも10ポイント近く多い43%の票を得た。2003年の大統領選挙では、リベラル党はオビエドとの交渉に失敗しウナセとの連合が組めなかった。また、2003年には国民集結党に代わる第二の野党として愛国党（Partido Patria Querida）が台頭し、単独で出馬した結果、愛国党の候補者であるファデウル（Pedro Fadul）の得票率は21%までに上昇した。野党連合を形成せずに単独で選挙に挑んだリベラル党は、24%の票しか集められなかった。つまり、リベラル党は2003年にウナセもしくは愛国党と野党連合を形成すれば、コロラド党の票数を上回る可能性があった。

この失敗を機に、2008年の選挙でリベラル党は、ルゴ（Fernando Lugo）が率いる左派連合フレンテ・グアス（Frente Guasu）と連合を組んだ。東北部の神父で公的な役職についたことのないルゴを大統領候補に、そしてリベラル党のフランコ（Federico Franco）を副大統領候補にした（上谷2008）。アイトサイダーを大統領候補に起用することにより、改革や「新しさ」を売り出し、左派や地方の有権者を中心に支持基盤を広げようとした。その結果、2008年に野党連合は政権を獲得することができた。このように、2008年の大統領選挙では、野党の団結により支持基盤を拡大し、当選が可能であることを証明した。なお、2013年以降の動きに関する詳細は以下の第2節で解説する。

2. アレグレの台頭と支持の弱体化

2013年から2023年まで、3回にわたってアレグレがリベラル党から大統領選挙に立候補した。1回目（2013年）および2回目（2018年）はいずれも票の35%以上を獲得し、有望な野党候補であった。とくに2018年の大統領選挙では、コロラド党のアブドとの差は3%で、微差となった。なぜアレグレは2013年および2018年には支持基盤を拡大したにもかかわらず、3回目（2023年）の選挙では27%の票しか集められなかったのか。

アレグレは長年政治に携わってきたベテランである。1983年にリベラル党の青年部に所属し、1993年から2008年まで下院議員を務め、2005年頃からリベラル党の中心人物の一人になった。また、2008年に上院議員に当選するが、同年にルゴ政権の建設大臣になった。リベラル党内にはコロラド党と同じく派閥が存在し、2005年に党の代表選をめぐりジャーノと争い、アレグレ派と

ジャーノ派の対立が先鋭化する (Pérez Talia 2022: 154)。しかし、2012 年にルゴ大統領が弾劾され失職し、ルゴに近かったジャーノは大統領選挙への出馬を断念した。これにより、アレグレを候補者にする事でまとまった。2013 年の大統領選挙では、コロラド党からはカルテスが立候補した。カルテスは大手銀行やタバコ産業など、複数の企業を経営する国内有数の企業家であったが、アレグレはカルテスが麻薬の密輸事業に関与していると非難することで支持を集めようとした。一方でアレグレは複数の野党との連立を試みるが、ルゴ政権 (後のフランコ政権)⁷の汚職問題でリベラル党のイメージが悪化しており、いくつかの重要野党が連合への参加に対して消極的であった。たとえば、左派連合フレンテ・グアスは野党連合に参加せず、自ら大統領候補者を擁立した。また、愛国党も連合に参加しなかった。さらに、2012 年 2 月にウナセのオビエドがヘリコプター墜落事故で亡くなり、多くのオビエド支持者がカルテスに票を投じた。その結果、カルテスは公的な役職についたことがないにもかかわらず、2013 年の大統領選挙で 46%の票を得て当選し、コロラド党による政権を取り戻した。アレグレは 37%の票を集め、カルテスと 9 ポイント近くの差で敗れた。

2017 年 3 月にカルテス大統領およびカルテス派の議員たちは、上院議長なしに非公式で行われた「パラレル上院議会」を臨時に設立し、憲法改正を試みた。また、野党であるにもかかわらず、ジャーノが率いるリベラル党のジャーノ派も再選に向けた憲法改正を支持した。これにより多くの市民が抗議デモに参加し、一部のデモ隊により議会の建物の一部が破壊される事態となった。この事件を受け、カルテスは再選をあきらめたが、市民のあいだでは反カルテス感情が強くなった。一方でカルテスは、自身の政策を継続されるためにカルテス政権で財務大臣を務めたペーニャを推薦した。ペーニャは米国のコロンビア大学で修士号を取得し、パラグアイ中央銀行や世界通貨基金 (IMF) でエコノミストを務めたあとパラグアイ中央銀行理事に指名され、2015 年に 36 歳で財務大臣に抜擢された⁸。若手テクノクラートを指名することで信頼性や新鮮さをアピールしたが、ペーニャは党内選挙で反カルテス派を率い憲法改正にも反対したアブドに敗れた。その結果、反カルテス派のアブドがコロラド党の正式な大統領候補となった。

反カルテス・ムードを機に、アレグレは大規模な野党連合を結成した。左派の野党に配慮し、副大統領候補には、かつての独裁政権に異を唱えた著名なジャーナリスト一家の次男で、左派連合フレンテ・グアスのルビン (Leo Rubín) を指名した。すでに見たとおり、以前にも左派連合フレンテ・グアスとリベラル党は連合を形成しており、これにより 2008 年の大統領選挙では野党連合が大統領選で勝利している。一方で、コロラド党のアブドも反カルテス派であり、2018 年の選挙は「反カルテス」を主張する者同士の戦いとなった。その結果、アブドにも票が集まり、3 ポイント差で当選した。党内選挙前はコロラド党内で派閥争いがあったが、大統領選挙となるとカルテス派のコロラド党員は派閥より党を優先し、最終的にはコロラド党の候補者が当選した。選挙には敗れたが、アレグレが率いる野党連合は、2018 年の大統領選挙では民主化以降最も高い 43%の得票率となった。つまり、アレグレは「反カルテス」のスローガンのもとで左派政党と協力することによって、支持基盤を拡大することが可能になったと言える (表 2)。

⁷ ルゴは弾劾により 2012 年 6 月に失職し、副大統領だったフランコが大統領に就任した。

⁸ “¿Quién es Santi Peña?” *ABC Color*, 2 de enero, 2015.

表 2 1989 年から 2023 年までの大統領選挙における
リベラル党が率いる大規模な野党連合の有無

年	リベラル党が率いる大規模な野党連合の有無
1989	不成立：民主化直後であったため、主要野党がまだ存在しない。
1993	不成立：当時第二の野党であった国民集結党との連合なし。
1998	成立：国民集結党との連合が成立。
2003	不成立：ウナセ（UNACE）および愛国党との連合なし。
2008	成立：左派連合フレンテ・グアス（ルゴ）との連合が成立し、当選。
2013	不成立：左派連合フレンテ・グアスおよび愛国党が野党連合から離脱。
2018	成立：反カルテスムードのもとで左派を含む主要野党との交渉が成立。
2023	不成立：クーバスが野党連合から離脱。また、左派や愛国党から不満と不信感。

（注）網掛けの年は野党連合が「成立」。

（出所）筆者作成。

2023 年の大統領選挙においても、リベラル党からはアレグレが 3 度目の立候補をすることになった。なお、元 NGO パラグアイ支部長で、31 歳の若さでカルテス政権の住宅開発大臣を務め、その後オックスフォード大学で修士号を取得したヌーニェス（Soledad Núñez）がアレグレの副大統領候補となった⁹（写真 1）。ヌーニェスは当初、自ら大統領選に立候補することを模索していた。だが交渉の末、野党連合のもとで出馬することで合意した。アレグレとしては、ヌーニェスが 40 歳の女性であることから、若者や女性からの幅広い支持を集めるねらいもあった。また、若手のテクノクラートを指名することで、「新鮮」なイメージを形成しようとした。しかし、ヌーニェスがコロラド政権で大臣を務めていたことがメディアなどから批判され、リベラル党内部から不信感を表す声も上がった。とくに左派連合フレンテ・グアスは、ヌーニェスは野党連合を代表するのに保守的すぎるとし、抗議した。また、アレグレは連合の形成を再度試みるが、ほかの野党からアレグレへの支持が薄れており、有力野党である左派連合フレンテ・グアスや愛国党の一部が消極的な態度を見せたため、左派連合フレンテ・グアスは正式に野党連合に加わらなかった。結果的にヌーニェスの起用が左派連合フレンテ・グアスの支持者に不信感を与え、野党連合全体を弱体化させた可能性がある。

⁹ “Soledad Núñez: quién es la candidata a vicepresidenta por la Concertación Nacional.” *ABC Color*, 29 de abril, 2023.



写真1 選挙活動でのアレグレ(左)とヌーニェス(右)(2023年4月19日 ABC Color/Norberto Duarte 2023年11月16日付でABC Color社より掲載許可取得)。

2023年の選挙運動では、野党連合は2013年や2018年同様に「反カルテス」のスローガンを繰り返した。2023年1月26日、米国政府はカルテスや当時の副大統領であったベラスケス(Hugo Velázquez)が過去の大統領選挙で票を集めるために、コロラド党内で巨額の資金を配布したとして制裁措置を課した。カルテスとベラスケスには米国への入国が禁じられたほか、カルテスが関連する企業の所有や財産がブロックされた。カルテス政権の汚職問題が国際問題になるなかで、アレグレはカルテスおよびカルテス派のペーニャを「マフィア」と呼び、「マフィアなきパラグアイ」をモットーにしていた¹⁰。つまり、徹底して「汚職への対抗」姿勢を見せることによって支持を集めようとした。しかし、これ以外の政策を提言する場面が少なかった。アレグレはEFEやEl Paísなど複数のメディアでインタビューに応じたが、いずれも「マフィアへの対抗」を繰り返すばかりであり、具体的な政策の方向性を示さなかった¹¹。このため、アレグレが今回どのような新しさを提供できるかがわかりにくくなっていた。さらに、汚職への対抗がアレグレの唯一の売りとなっていたがクーバスも汚職に対抗する姿勢を売りにし、両者で汚職への対抗を競い合うかたちとなった。その結果、新しさを打ち出せなかったアレグレは、パフォーマンスで汚職への対抗姿勢を巧みにアピールしたクーバスに票を奪われた。クーバスのパフォーマンスについては、以下の第3節で解説する。

¹⁰ “Efraín Alegre y Soledad Núñez lanzan chapa contra ‘la mafia que se apoderó del país.’” *Última Hora*, 16 de agosto, 2022.

¹¹ Santi Carneri, “Efraín Alegre: ‘En Paraguay el sistema ha colapsado y hay una decisión de cambio.’” *El País*, 26 de abril, 2023.

3. パフォーマンスを活用したポピュリストの登場

上記のように、クーバスの台頭が今回の大統領選挙結果を左右するもう一つの要因となった。クーバスは若い頃から政治に関心があり、当時第二野党の国民集結党に所属し、1993年から1998年まで下院議員を務めた¹²。また、1998年には東部エステ市長選、2001年にアルトパラナ知事選、2011年にあらためてエステ市長選に出馬しているが、いずれも落選している¹³。その後、エステ市を拠点にデモを通じてアクティビストとして、著名な高官への落書きなどを行い政治的な活動を始めるようになる。さらに、2017年にはデモ活動の一環として「汚職」などの文字を検察総長の自宅に落書きし、逮捕される。この事件を機に、メディアに取り上げられるようになる。2018年の総選挙にあらためて自身が設立した国家十字軍党から議会選挙に出馬し、アレグレおよびアブドの汚職に対する強い批判を通じて支持を集め、上院議員の座を獲得した。

議員となったクーバスは上院議会でも現職の政治家を非難するため、独特のパフォーマンスを複数回に渡って繰り広げた。たとえば、2018年10月6日、クーバスは上院議員のマシ (Desirée Masi) の夫であるフィリゾラ (Rafael Filizzola) が、内務大臣時代に警察用ヘリコプターを不法に購入したと主張した。このため、同月25日、議会にてマシ上院議員に対し、「ヘリコプターに乗って故郷に戻れ」や「汚職者」と繰り返し叫ぶ場面があった¹⁴。同年11月には著名な政治家一人ひとりに指をさし、「泥棒だ」、「与野党もすべて同じだ」などと叫ぶ場面もあった¹⁵。また、クーバスのパフォーマンスはユーモアを交えることもあった。2018年11月22日には、普段黒いTシャツ姿のクーバスはカツラをかぶりスーツ姿で現れ、「自分は汚職議員の一員になった」などと皮肉を込めて記者の前で発言した¹⁶。プライベートではテレビのトーク番組にも複数回参加し、議会での態度とは異なり親しみやすいイメージを形成しようとした。2018年11月に放送されたテレビ番組で行われた街頭インタビューにて「最も共感できる議員」を調査した際に、クーバスと答える市民が多かった¹⁷。このように、巧みなパフォーマンスによって、政治家の腐敗に不満をもつ市民の共感を得て、支持を集めるねらいがあった。

上院議会での暴力の使用を厭わなかったクーバスは、自身のパフォーマンスをエスカレートさせていった (写真2)。2019年4月12日にはコロラド党のガラベルナ (Juan Carlos Galaverna) 上院議員やルゴ元大統領に向けて、ペットボトルに入った水をかけた。同年7月19日には、コロラド党の上院議員で元教育大臣のリエラ (Enrique Riera) と格闘する場面も見られた。さらに同年11月には警察に暴行をふるうなど複数の事件を起こし、同月28日には上院議員の辞任まで迫られた。それにもかかわらず、クーバスはSNSを通じて著名な政治家に対しグアラニー語で非難を続けた。このため、SNSでグアラニー語を使うことにより、水島の定義で言う「人民の代表者」を

¹² “El polémico Paraguay Cubas gana una banca en el Senado.” *Última Hora*, 23 de abril, 2023.

¹³ “Mesa de Periodistas: ¿Quién es "Payo" Cubas?” *ABC TV Paraguay*, 13 de abril, 2019.

¹⁴ “Senadores arremeten tras "entrada en corto" de Payo Cubas.” *Paraguay.com*, 26 de octubre, 2018.

¹⁵ “¿Qué piensan de Payo Cubas sus colegas parlamentarios?” *ALGO ANDA MAL*, 7 de noviembre, 2018.

¹⁶ “Con peluca y traje, así se presentó el “corrupto” Paraguay Cubas.” *Última Hora*, 22 de noviembre, 2018.

¹⁷ “¿Quién es el parlamentario que mejor te representa?” *ALGO ANDA MAL*, 7 de noviembre, 2018.

演出し、親近感を高めるねらいがあったと考えられる（水島 2021）。



写真2 パラグアイの議会にて、リエラ上院議員と再び衝突するクーバス。真ん中で両手を挙げている人物がクーバスで、警備員に抑えられている人物がリエラ（2022年8月7日 ABC Color/Archivo ABC Color 2023年11月16日付でABC Color社より掲載許可取得）。

クーバスは、2020年10月に大統領選への立候補を表明した。当初、野党連合への参加を検討していたが交渉は難航し、2022年8月には連合から離脱して独自に立候補することを発表した。選挙運動では腐敗政治に対するスローガンを強化し、「汚職をする政治家には死刑を与える」などの過激な主張を繰り返した¹⁸。その結果、大統領選挙では、23%の票を獲得し、リベラル党のアグレレと5%未満の差で三番手となった。多くのメディアはクーバスの台頭をサプライズと表した。また、クーバスの台頭は多くの政治家にとっても意外であった。実際、愛国党は2023年の選挙を振り返り、クーバスの支持層を過小評価していたとラジオへのインタビューで認めた。

政治学者のラッキは、クーバスはポピュリストであると指摘した¹⁹。政治学におけるポピュリズムの定義は多様であり、共通の定義は存在しない。しかし、多くの政治学者はミュデの定義を引用している（水島 2021; Gidron and Bonikowski 2013; Rooduijn 2019）。ミュデはイデオロギーの側面からポピュリズムを解析し、「純粋な民と腐敗したエリートという二つの対立軸に社会が分かれていると考え、政治は純粋な民の意志を代表すべきだと主張するイデオロギー」とポピュリズムを定義している（Mudde 2004: 543）²⁰。ただし、社会主義や自由主義などの伝統的なイデオロギーとは異なり、知的に洗練されてなく一貫性もないため、「薄いイデオロギー」である。このため、共産主義や愛国主義、社会主義などの伝統的なイデオロギーと組み合わせることができる。クー

¹⁸ Juan Décima, “Elecciones en Paraguay: Payo Cubas, el ‘Milei paraguayo,’ que apuesta al voto bronca y propone pena de muerte para los corruptos.” *Clarín*, 27 de abril, 2023.

¹⁹ “Payo es un populismo destructivo pero se vuelve el opositor más fuerte” según analista.” *ABC Color*, 2 de mayo, 2023.

²⁰ この英語からの翻訳は筆者によるものである。

バスは伝統的なイデオロギーを掲げることなく、自身を「純粋な民」を代表しているような発言をし、一貫して「腐敗したエリート」を非難した。また、このような行動から支持を集めようとしたため、ミュデの定義に当てはまる。

さらに、Gidron and Bonikowski (2013) はミュデの「イデオロギーとしてのポピュリズム」のほかに、「話法 (discourse) としてのポピュリズム」と「政治戦略としてのポピュリズム」を紹介している。たとえば、Kazin (1995) は「我々」と「彼ら」の対立軸を生み出し、支持の獲得をねらう話法だとしている。また、Weyland (2001: 14) はポピュリズムを「個人主義的 (personalistic) なリーダーが大衆の支持を得るための政治戦略」と定義している。一貫して腐敗政治への対抗を表すクーバスのパフォーマンスは、巧みな話法でもあり、政治戦略でもあった。複数の定義に当てはまるため、政治学的にクーバスはポピュリストだと言える。

おわりに

結論として、アレグレはヌーニェスを指名したことで主要野党に不満を抱かせ、2018 年に比べて野党連合の結束力も低下した。加えて、以前から主張している汚職への抵抗や「反カルテス派」を繰り返したが結果、十分な新しさを打ち出すことができなかった。そして、これをチャンスととらえたクーバスは、パフォーマンスを通じて汚職への抵抗を売りに支持を集めていたことから、野党連合から離れ、自身の党から大統領選挙に出馬した。よって、クーバスはリベラル党および野党連合の支持基盤を分裂させた。もしアレグレがヌーニェスではなく左派の副大統領候補を指名し、汚職への抗議だけではなく具体的な政策をアピールすれば、より多くの票を集めた可能性があるだろう。また、両者の票を合計すればペーニャの票を上回ることから、もしクーバスが野党連合に参加していれば、アレグレが当選していた可能性はあったかもしれない。

クーバスは 2028 年の大統領選挙での出馬に意欲を見せている。最近でもバラエティー系のテレビ番組に出演しており、イメージ作りや情報発信を積極的に続けている。クーバスは過去には「パラグアイを独裁政権にしたい」などの反民主的な発言をしているため、これからもパラグアイの選挙制度や法の支配などを脅かすような活動を行う可能性がある²¹。また、ポピュリズムの登場によって、パラグアイ市民がいかに既存の政治エリートに対して不満を抱いているかが浮き彫りとなった。このため、パラグアイ政府はクーバスの台頭を「警鐘」として受けとらえ、法の支配の強化に取り組み市民からの信頼の回復に努める必要があると考える。

²¹ “Payo Cubas propone una dictadura.” *ABC Color*; 11 de octubre, 2018.

引用文献

〈日本語文献〉

上谷直克 2008. 「2008 年 4 月パラグアイ総選挙—「急進」左派アウトサイダーの勝利」『ラテンアメリカ・レポート』(5)2: 16-28. https://doi.org/10.24765/latinamericareport.25.2_16
水島治郎 2021. 『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』中央公論新社.

〈外国語文献〉

Gidron, Noam, and Bart Bonikowski 2013. “Varieties of Populism: Literature Review and Research Agenda.” *Weatherhead Working Paper Series*, No.13-0004.
Kazin, Michael 1995. *The Populist Persuasion: An American History (REV-Revised, 2)*. New York: Cornell University Press.
Lachi, Marcelo, y Raquel R. Schaffer 2018. *Correligionarios. Actitudes y prácticas políticas del electorado paraguayo*. Asunción: Arandura Editorial.
Mudde, Cas 2004. “The Populist Zeitgeist.” *Government and Opposition*, 39(4): 541-563.
Rooduijn, Matthijs 2019. “State of the Field: How to Study Populism and Adjacent Topics? A Plea for Both More and Less Focus.” *European Journal of Political Research*, 58(1): 362-372.
Pérez Talia, Marcos 2019. *El Partido Liberal en la transición*. Asunción: El Lector.
———2022. *El cambio de los partidos políticos en el gobierno y en la oposición*. Asunción: Editorial Intercontinental.
Weyland, Kurt 2001. “Clarifying a Contested Concept: Populism in the Study of Latin American Politics.” *Comparative Politics*, 34(1): 1-22.

(たなか・しゅういち／一橋大学大学院)